

なぜ、きょうだい支援を始めるか

しょうがいのある人を兄弟・姉妹に持つ『きょうだい』は、特有の悩みや課題があると言われていています。それにより、孤独・不安・寂しさ・プレッシャーなどを感じ、自己肯定感や自尊心が低くなる方もいます。

例えば…

しょうがいのある兄弟（姉妹）のお世話をしなければ

しょうがいのある兄弟（姉妹）のことを周囲に隠してしまった…

親がしょうがいのある兄弟（姉妹）のお世話を手一杯で自分と関わる時間が少ない

親亡き後は、生涯にわたって、しょうがいのある兄弟（姉妹）を支えていかなければ
など

つどいの家はしょうがいのある人の地域生活を支えるため、平成 8 年よりレスパイト事業を創設し、家族支援に取り組んできました。『きょうだい』が抱える悩みや課題に寄り添うにあたっては“しょうがい者”やその家族を取り巻く環境を含め、そこに潜む社会的構造にも着目していかなければなりません。しょうがい者への理解促進など、社会の障壁をなくす取り組みも必要です。

私たちのこれまでの実践経験を活かしながら、当事者、地域の方々等と協働してこのプロジェクトを進めていきたいと思っております。

めざすこと

きょうだいが、心身ともに健やかに成長し、主体性を育みながら、夢や希望をもって歩むこと。

誰もがその人らしく安心して暮らすことのできる社会を創造すること。

多様な人たちを社会全体で支える風土を醸成し、地域力を向上すること

（多様性と包摂性、社会構造の変革）